

七条中学校だより9月3号

京都市立七条中学校

令和8年9月3日

発行：校長 林 秀雄

小さな行動が、社会を変える 京都市の「ごみ半減」の挑戦から学ぶこと

みなさんは、日本で年間どれくらいの食べ物が捨てられているか知っていますか。答えは、年間461万トンです。これは「まだ食べられるのに捨てられてしまう食品（食品ロス）」の量です。金額にすると約3.8兆円。国民一人当たりで換算すると、年間3万円以上を捨てている計算になります。

この問題について長年取材や研究を続けているのが、**食品ロス問題ジャーナリストの井出留美さん**です。井出さんは著書『**私たちは何を捨てているのか**』の中で、「私たちが捨てているのは食べ物だけではない」と訴えています。食べ物を作った人の努力や思い、栽培や製造に使われた水やエネルギー、運搬にかかった時間や費用、そして地球環境への負荷までも一緒に捨てているのではないかと。そんな問いを私たちに投げかけています。

井出さんは、節分の日に売れ残る恵方巻の実態を自ら調査し続けています。「なぜ、まだ食べられるのに捨てられてしまうのだろう」という一つの疑問から調査を始め、その結果を社会に発信しています。私は、この姿勢こそが探究学習の出発点と感じました。「なぜだろう」「本当にそうなのだろうか」「もっとよい方法はないのだろうか」そんな疑問を持ち、自ら調べ、考え、行動することが、社会をより良くする第一歩なのです。

さて、その井出さんが特に注目しているのが、私たちの住む**京都市の取組**です。京都市は、2000年には約82万トンあったごみの量を、20年以上かけて半分以上まで減らすことに成功しました。しかし、その方法は特別な技術や大きな改革ではありませんでした。

例えば、●「食べきれる量を注文しましょう」と呼びかける●宴会の終わりに「残った料理を食べ切りましょう」と声をかける●修学旅行生が食べきれる量の食事を提供する●スーパーで食品をできるだけ長く販売する●学校で食品ロスについて学ぶ など、一つ一つは誰にでもできる身近な取組です。その小さな工夫を市民、企業、学校、行政が一緒になって続けた結果、ごみを大幅に減らすことができたのです。

京都市の取組は、みなさんが総合的な学習の時間やSDGsの学習で取り組んでいることにもつながります。世の中を変えるのは、必ずしも大発明や特別な才能ではありません。身近な課題に気づき、調べ、考え、行動し、そして続けることです。

例えば、●給食をできるだけ残さず食べる●食べられる量だけ取り分ける●冷蔵庫の中を確認してから買い物に行く●家庭でどんな食品が捨てられているか調べてみる●家族と食品ロスについて話し合ってみる こうした行動も立派なSDGsの実践です。

京都市が教えてくれたのは、「**小さな行動でも、続ければ社会を変えられる**」ということ。そして井出留美さんが教えてくれたのは、「**一人の疑問が社会を動かす力になる**」ということです。さて、みなさんなら、食品ロスを減らすためにどんな工夫ができるでしょうか。ぜひ「七条の探究」の視点で身近な課題を見つけ、自分なりの解決策を考えてみてください。未来を変える第一歩は、遠い世界の大きな話ではありません。今日の給食や家庭での食事、そして「なぜだろう」という小さな疑問から始まるのかもしれない。

進路選択は「自分の目で確かめること」から

8月29日・30日には、みやこめっせにおいて「第40回京都私立中学・高校展」が開催されました。京都府内37校の私立中学校・高等学校が参加し、入試や学校生活について直接相談できるほか、各校のパンフレットの配布や修学支援相談コーナーなども設けられ、多くの中学生や保護者の方々が参加されました。

3年生の皆さんには、この間、学校だよりや学年の先生方から「積極的にオープンキャンパスや学校説明会に参加しましょう」と呼びかけてきました。実際に複数の学校へ足を運び、自分の目で学校の雰囲気を感じたり、生徒や先生方の様子を見たりすることはできたでしょうか。

進路選択では、公立か私立か、普通科か専門学科か、全日制か定時制・通信制かなど、さまざまな選択肢があります。しかし、パンフレットやインターネットだけでは分からないこともたくさんあります。校舎の雰囲気、授業の様子、先輩たちの表情、通学時間や学校の特色などは、実際に訪れて初めて分かることです。

9月に入り、3年生はいよいよ進路決定に向けた大切な時期を迎えます。そして12月には三者懇談会を通して進路希望先を具体的に絞り込んでいくことになります。その時になって「あの学校も見ておけばよかった」「もっと比較しておけばよかった」と後悔しないためにも、今のうちにできるだけ多くの情報を集め、自分に合った進路について考えてほしいと思います。

進路を決めるのは、最終的には自分自身です。誰かに勧められたからではなく、「自分で見て、聞いて、考えて選んだ」と言える進路選択をしてほしいと思います。将来の夢や目標につながる大切な一歩です。ぜひ自分の足で学校を訪れ、自分の目で確かめ、自分の未来を主体的に切り拓いていきましょう。